

新しい世界を求めながら読もう（6年）

ぼくの世界、きみの世界

●指導目標

- ◎ 自分の考えを広げたり深めたりするために、書かれている内容について筆者の意見をとらえ、自ら考えをもちながら読む。

●教材について

6年生は、自分自身に対する関心が高まり、自我の目覚めを感じさせる言動が目立つ時期である。それまで、自分と同じような興味・関心をもっていると思っていた友達との一体感が、何らかの理由で崩れ、今までとはまったく違った別の相手に見えてくるなど、日常生活におけるさまざまな人間関係をとおして、他者とは異なる自分（自我）に目覚め、悩むことも多くなる。しかし一方では、事実を客観的にとらえ、ある事象に対しては肯定的に、あるいは批判的に見る目も育ってきている。

このような時期の国語科学習に際しては、それぞれの子どもが「自分だけの心の世界」について考え、今後の「人間関係のあり方」や「心を伝え合うための努力」について考えを深めていくようにしたい。そして、子どもたち一人ひとりの知りたいという好奇心、言語感覚の鋭さ、伝えたい、知らせたいという表現意欲に裏付けられた言葉による思考、判断、表現のよさが、存分に発揮できるような授業の改善と展開を必要とするであろう。

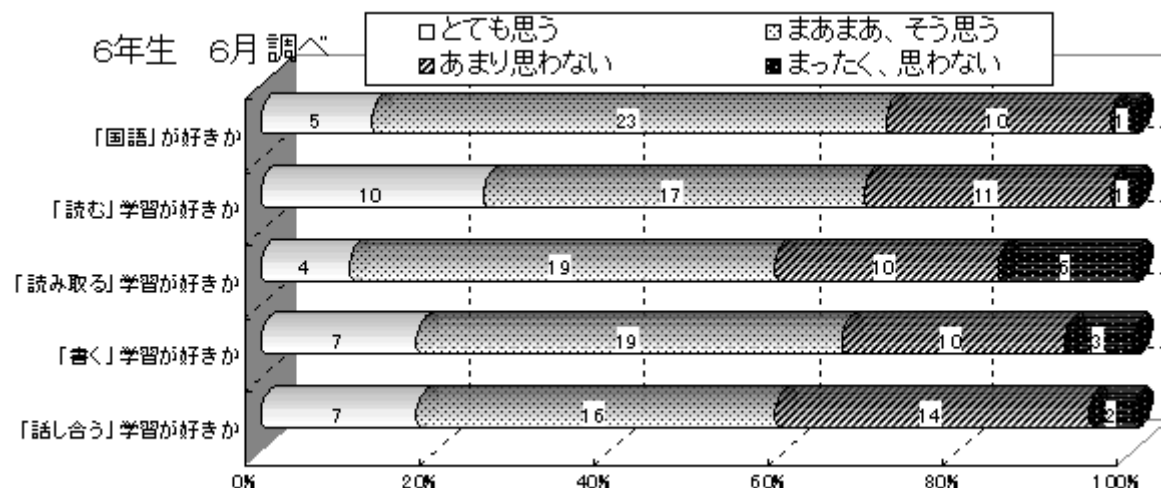
（参考資料① 別紙プリント参照）

本単元「ぼくの世界、きみの世界」は、筆者の考えを読者に語りかけるというスタイルで、筋道立てて述べられている。しかしその内容は、哲学的で高度である。そこで、教材文の論理を丁寧に読み取る読解指導だけでなく、子どもたちが自ら気づき、発見していけるような授業、あるいは、既習事項を次の学習展開の中で自分なりの活用をしたり、応用したりするような授業を展開するようにした。

この単元で育てたい力

- 話すこと・聞くこと**…自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと
(A (1) ウ)
- 書くこと**…目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと
(B (1) ア)
- 読むこと**…自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと
書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
(C (1) エ)
- 言語事項**…文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること
(言 (1) オ ア)

国語科学習の基本方針は、子どもたちの自ら学ぼうという学習意欲と社会の変化に主体的に対応できる言語思考能力の育成を図り、基礎・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めることである。しかし、本学級の児童の国語科授業に関する意識アンケートを見ると、高い意欲を示しているとはいいがたいものがある。



そこで、次のような授業の構想を立ててみた。

子どものよさが生きる授業構想

- ① 初発の感想を元に、一人ひとりの子どもが課題をもち、主体的に学習する。

国語科における学習課題は、子どもたちの思考から生まれたものが理想である。そのことが学習活動を活性化し、より主体的な読みの学習が展開されるもととなる。そこで、初発の感想で得た課題を自分たちの力で解決する過程をとおして、主体的な学習方を貫かせることをねらいとする。

- ② 子どもたちが自分の考えをはっきりさせながら読む学習をする

6年生では、文章に述べられていることを正確に読み取る力を伸ばすとともに、指導要領「書かれている内容について事象と感想、意見の関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」とあるように、読むことによって考えを深めることができるようにすることに力を注ぎたいと思う。そのためには、筆者の考え方に対して、自分はどう思うかを考えさせる活動を取り入れなければならない。その具体的な方法としては、教材と対話することが有効であろう。さらにその際、読んで考えたことを友人と互いに比べたり、話し合い活動をしたりすることによって、自分の考えを深めさせ、筆者の考え方や述べ方を鋭く見る目を育てるように指導する。また、子どもたちのとらえ方のよさを認め、話し合い活動を活発にしていけるように助言していくことを心がける。

- ③ 子どもたちが文章構成の妙味や表現の工夫に自ら気づく学習を進める

説明的文章教材の指導は、表現されたものを理解していくという読解に終始してしまう傾向がある。しかし、子どもたちにとっては、今後いろいろな教科学習や生活の中で、説明文に触れることが増え、書くことも多くなると考えられる。本単元での学習をとおして、表現から理解へという流れの学習だけでなく、理解から表現へという流

れの学習を設定し、「自分らしい見方や考え方のよさ」を発揮させるようにしたいと考えた。形式段落を束ねた大きな意味段落の要約文をもとに、筆者の意図をつかみ、それに対する自分の賛否の立場をはっきりさせるところから始め、ワークシートによって主体的に思考し、判断できる学習の場を設定するようにした。そうして、子どもたちに必要な言語能力を身に付けさせ、効率的な学びのよさを感じ取らせるように配慮した。

(ワークシート②・ワークシート③まとめプリント参照)

具体的には、この説明文における筆者の巧みな言葉使いの工夫や文章構成の妙味に触れさせ、その文章構成を活用した短いコメント作文の指導を取り入れることである。語り手の「ぼく」に対して、読者である子どもたち一人ひとりが、賛成したり、考え込んだり、反論したりしながらコメントを書くワークシートを活用して読み進むように工夫した。

また、グループやクラス内での意見の交流（フリートーク）・教材文に沿って自分の考えを発表するための発言予約制・文法に着目して正確に読み取る発言法等の学習方法等をとおして、児童相互に刺戟し合い、自分たちと文章の内容とを重ね合わせて考えを深めていく手助けになるようにも配慮した。(参考資料④参照)

また、授業の最終部には同筆者の参考文を提示し、次時の学習への意欲化を図りたいと考えた。

●学習指導計画（全9時間）

展開	時	学 習 活 動 の 要 点
第 一 次	1	○ 単元全体の学習活動を立てる。 ○ 「ぼくの世界、きみの世界」を読み、段落分けをしたり、問いかけの文を見付けたりしながら文章構成をつかむ。
	2	○ 筆者の体験「うす暗い電球事件」について読み取り、自分も似たような経験がないかどうかを話し合い、コメントを書く。
	3	○ 甘みや痛みの感覚はすべての人に共通するののかという問いについて考え、意見を出し合い、コメントを書く。
	4 (本時)	○ 「心のキャッチボール」によって心を伝え合っていこうとする筆者の主張を読み取って、コメントを書く。 ○ 実際に対話を経験し、その中で思ったことや考えたことをまとめる。
	5	○ 学習の手引きを参考にして、これまでのコメントを読み返しながら、筆者の主張とそのことに対する自分の考えをまとめる。
第 二 次	6	○ 「新しい世界と出会おう」を読み、テーマを決めて読書することの目的や本の探し方を知る。
	7・8	○ 自分の決めたテーマについて、方法を決めて、本を探す。 ○ 心に残るフレーズや、筆者の考え方について、メモをしながら本を読む。
	9	○ 自分のテーマと読んだ本について、カードや本の形にまとめて紹介する。

●本時の展開（4／9）

目 標

- 「言葉のキャッチボール」によって心を伝え合っていこうとする筆者の主張を読み取って、コメントを書くことができる。
- 実際に対話を経験し、その中で思ったことや考えたことをまとめることができる。

●展開例

学 習 活 動	学 習 内 容	指導上の留意点と評価
1 第3段落を繰り返し読み、言葉のキャッチボール」の例と主張をつかむ。  友達感想を聞く 2 「アニメのおもしろさ」を例文にして、自分の思いと考えを書き込む。	○ グループ読み、全員音読、一人読みを組み合わせ、熟読する。 ○ 前時の筆者の主張「人と人とは、永遠に理解し合えないのだろうか。」に対する反論を確認する。 ○ 筆者の主張に対する自分の思いをワークシートに書き込む。	・グループ内の音読後に、話し合いの時間をとり、書き込みの手助けとする。 読む 筆者のあげている例と主張を区別して読み取っている。（ワークシート）  黒板の教材文に発言予約
「言葉のキャッチボール」をテーマに、 筆者の考えに対する自分の考えをコメントとして書こう。		
 さあ、発表してみよう 3 グループ内で読み合い、代表作や推薦作を発表し合う。 4 参考文献を読み、次時間への課題意識をもつ。	○ 共感できた例・違いがわかってよかった例・うまく理解することができなかった例などのはっきりした例をあげて自分の主張を話し合う。 ○ 考えを深めたり、自分を振り返ったりしながら、友達の作品を鑑賞する。	・ これまでに習った倒置法や文末表現などの修辞方を活用して、主張をまとめさせる。 読む・書く 筆者の主張に対する自分の考えをはっきりさせて、コメントを書く。 （ワークシート） ・参考文献を読み聞かせ、次時間への課題意識をもたせる。

もしかすると自分だけが違う考えで、みんなの考えに置いてきぼりにされているかもしれない。自分は置いてきぼりにされて、一生一人ぼっちになるかもしれないと思ったことがあった。それは、5年生ぐらいの討論会でのことだ。

この感想を書けといわれたとき、ほかの人の考えを聞いてみると、自分の考えと遠く感じることがあった。その時まだ、ぼくは一人ぼっちになって、このまま国語の授業は自分の分からないまま終わってしまうのかと思っていた。けれど、この「ぼくの世界、君の世界」で安心し、一年ぐらいの悩みがなくなって、まるで雲の上にいるような感じになった。

(S)

人の心って、パソコンに似てるなと思った。パソコンにはみんなで共有できる情報と、そのパソコンだけの情報がある。人の心も同じで、みんなで分かり合える心と、分かり合えない心がある。

例えば、「さみしい」という言葉は分かり合えるけれど、この言葉だけでは、どんなふうにさみしいか分からない。ぼくが、「あのゲーム楽しいよね」というと、友達は「ああいうところが楽しいよね」と返してくる。こうやって言葉のキャッチボールをしていると、分かり合えることが多くなる。

でもやっぱり、分かり合えることと分かり合えないことがある。自分の心とだれかの心とは違いがあるからだ。ぼくは思う。みんなの心が同じだったら、つまらないと思う。みんなの心が違うからこそ、お互いの心を知ろうとして、話すのだと思う。みんなの心が同じだったら、話すことはないのだと思う。みんなの心がちがって、楽しい話ができるのだと思う。ぼくは、みんなの心が違うからいいのだと思う。金子みすずさんの「みんなちがって、みんないい」の意味が、今、分かったような気がする。「みんなちがって、みんないい」この言葉は、人として、とても大事なことだと思う。すべてが分からなくても、人は分かり合えて、仲良くなれると、ぼくは思う。

(T)

この本を読んで、ぼくは、自分の思ったことと友達の思ったことが違ったときに、「ああ、こんなこともあるんだ」と思った。ほかの人と違ったことがいっしょだったりすると、ちよつとうれしい。姉が好きな食べ物でも、味はいっしょでも、自分はおいしくなかったりもする。

この本の「ぼくの世界、きみの世界」を読んで、言葉のキャッチボールができているのか、いないのかが分かる。仲のいい友達とうまく話し合えると、言葉のキャッチボールはよくできるし、あまり話がうまく伝えられないと、言葉のキャッチボールができない。やっぱり言葉のキャッチボールができる人と、ぼくは仲良くなりたい。今の本当の友達はいずれ、見つけてみたい。ただ遊びだけが仲良くだって、・・・本当の友達とは誰だろう。このクラスの人かな。それとも、ほかのクラスの人か、いつたいだれなんだろう。この一年間で、本当の友達というのを見つけてみたい。人の思うことと、自分の思うことは違う。今は何を考えているんだろう。

(N)

○ 本文とよく比べながら読んで、要点の書き方を覚えましょう。

小見出しをつけよう

(一〜六) 段落の要点

ぼくが小学校四・五年生のころ、うす暗い電球を見ていて、

「この電球は丸くて、うす暗くて、だいたい色に見えるが、

それは自分にだけ見えていて、ほかの人に同じように見

えている保証はない。」という考えが浮かんだ。

そう思うことは、不思議で心細い感じだったが、それは、

実は同じような体験がある人がたくさんいる、哲学上の問

題だった。

筆者の考えに対する自分の考えをコメントにしよう
筆者は ()

(しかし・そして)、(ぼく・私)(は・も)、()

()と考えている。

()と考える。

くわしく学習してみると、いつも読んでいる文も、よく読み、考えたりつなぎ合わ
せたりしてみると、こんな風に筆者が考えているなんて、思いもしなかった。まるで
昔のぼくみたいに、たくさん迷ったりしたんだなって思った。筆者は、だれの心もほ
かの人には分からないといっているんじゃないかと思う。くじけそうになったら、こ
れを思い出そう。

作者は、ぼくだけに見えて、自分以外の人にはそう見えないかもしれないというこ
とを思って、すごいと思う。3段落目で、相手はそう見えているかの保証がないとい
っているようだ。

学習して、複合語は「言葉の足し算」ということが分かった。指示語も出てきた。

ぼくも電球を見ていて、丸く、橙色をしていると思った。自分に見えていても父や
母にはちがう考えかもしれない。でも、聞いてみると同じ考えなので安心する。

それぞれの人には違った感じ方があり、見えるものは違うんだということが分か
った。同じように考えているという保証はないと思うと、人は違う考えをもつんだな
と思った。

この話のように、一人きりの自分を感じることがある。他の人と考えていることが
違っていたりして、心細くなるときもある。でも、ほかの人も、時々そんな体験をし
ていると書いていて、安心した。自分の思いは、誰かに伝えようとしない限り、誰か
と分かち合えないかもしれないので、心を伝え合ったための努力をしようと思う。

私よりも年下だった筆者が、自分にはこう見えているが、他の人にはどう見えてい
るのだろうと考えるなんて、すごい。

学習で一番すきなものは、指示語探しだ。その指示語があるかを探すのが、クイズ
感覚で楽しかった。

(Z)

(Y)

(I)

(K)

(T)

(N)

(M)

(S)

参考資料④

授業の流れ

- ① 「ぼくの世界、きみの世界」グループリレー音読
- ② 読み取り学習
 - ・ 教科書に一人書き込み
 - ・ 黒板の教材文に発言予約
 - ・ 全員で読み取り学習（指示語・接続語・複合語・情景描写・心情表現等）
 - ・ 教科書にみんなで書き込み
- ③ ワークシート（宿題）
 - ・ ワークシートに場面イラスト・要点（筆者の意図）・学習川柳・学習感想を書く。
 - ・ ワークシートとフロッピーに打ちこんだものを提出する。
- ⑤ 「ワークシートまとめ」で感想交流